

農繁期

レポート

令和2年 8月号

栄ファーム

オーナー 栄運輸工業株式会社

水田面積 18.4アール

保証量 玄米 828kg

形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二

良い穂が出揃いすっかり田んぼは秋模様ですが気温が高く日差しの強い真夏が続いています。8月はカメムシの防除を行いました。カメムシはそんなに畔（あぜ）から稲へは飛ばないということで畔から田んぼの中に4mくらいしか散布しないので定量よりだいぶ少ない量の散布です。一番早い収穫まで約2週間となりました。大雨や台風が来ないことを願いながら臨機応変に最後まで稲を見ていきます。

8月の作業内容と稲の成長

1. カメムシ防除

お米にとって天敵であるカメムシは草がある所に発生します。稲の穂が出始めると水田内に侵入し、籾に口針を突き刺して汁を吸ってしまいます。それを防ぐためにこの時期に畔に近い水田周辺に最小限の薬を撒いて対応します。

2. 畔の草刈り

最後の草刈りをこの時期に行います。特にカメムシを水田内に飛散させないためにも発生源である畔の雑草は刈り取る必要があります。刈っても刈ってもすぐ生えてくる雑草との闘いは毎年農家さんを悩ませています。

出穂(しゅつすい)

茎の中で籾(もみ)が集まり「穂」が出てくる時期を「出穂期」と呼びます。出穂後に稲は葉で光合成をしてブドウ糖を生産し、穂に送り溜めたものが私たちが食べているお米です。そのため、出穂後の晴天は非常に重要になります。

光合成と水の管理

お米の収穫量に大きく左右するのは光合成です。葉っぱでしっかり光を浴び、土中から水分を吸い上げ、お米を作り上げていきます。また、間断かん水といって数日ごとに水を出し入れし、酸素供給と根の発育を促進させています。

